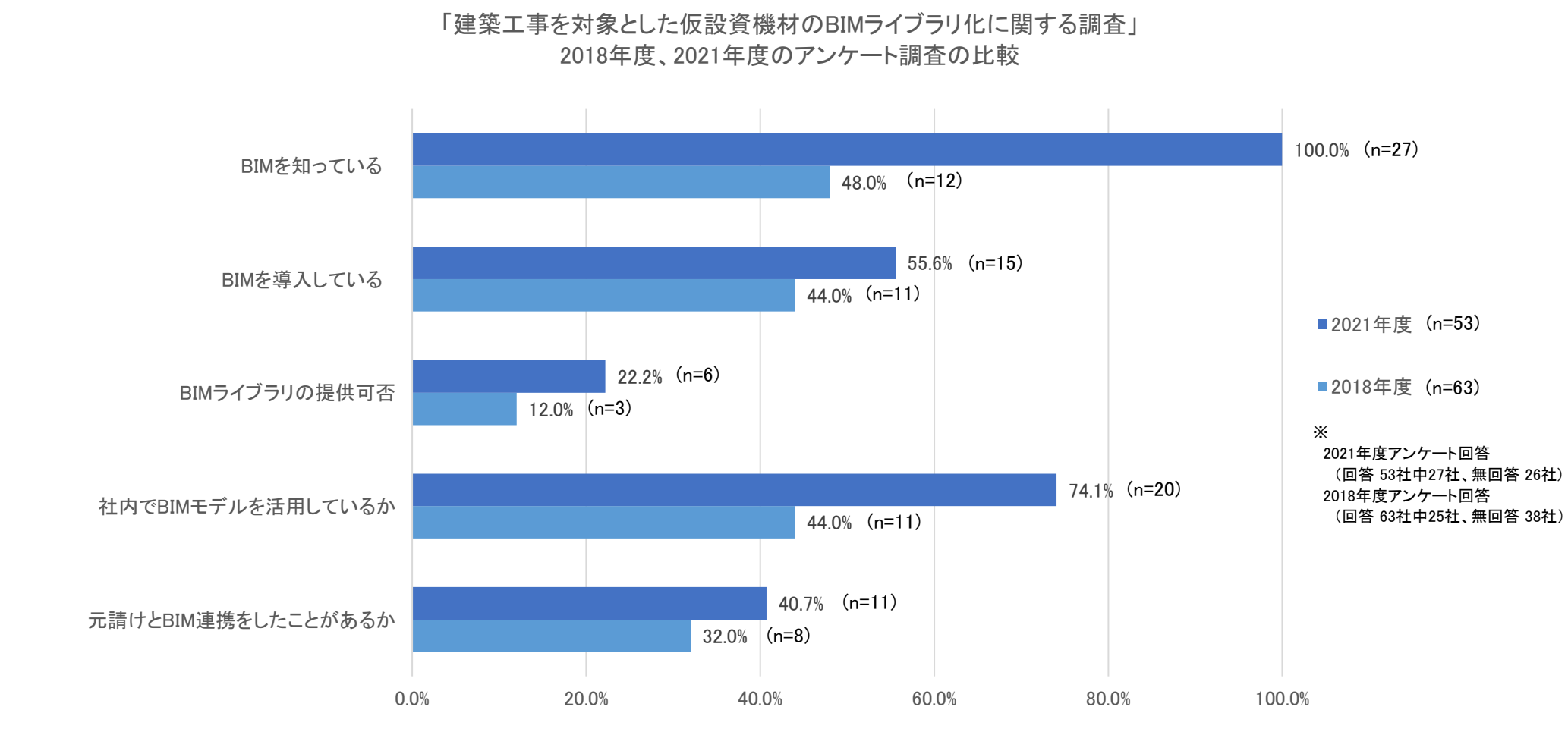


□本アンケート調査を通して、直近3年間の変化について

国・建設業界のBIM推進の動向もあり、全体的にBIMという言葉の認知度が高くなってきています。ゼネコンからBIM対応の依頼もあり、BIM導入、または導入検討をしている企業数が増えています。一方で、まだメリットを見いだせない工種もあり、導入を保留している企業も半数程度います。BIM導入を始めた企業は、現状の2D図面資料に加えて、自社HPにてBIMライブラリの提供を進めています。BIM導入を始めた企業は、現状の2D図面資料に加えて、自社HPにてBIMライブラリの提供を進めています。また、若干数ですが、元請けとBIM連携の実績がある企業も増えています。足場材や山留・構台のライブラリは充実しており、移動式クレーンも増加傾向にあります。課題として、LODと実用的なデータ容量のバランス、必要属性、機能などの標準化のほか、活用向上のために、利用目的の明確化、モデルを使った関連工種との調整が不可欠である事が見えてきました



注)本資料は、日本建設業連合会HPにて公開されています。今までの意見交換会議事録他、公開状況は以下URL参照。

<https://www.nikkenren.com/kenchiku/bim/report.html>
 本リストは、BIM仮設ライブラリWGが実施したアンケート調査において、回答頂いた企業のBIM推進状況をまとめたものです。
 2022年4月現在、アンケート回答があり、かつ公開許可を得られた企業のみ掲載しています。
 本リスト以外で施工BIMに取り組んでいる企業をご存知の場合、その他情報がございましたら、以下問合せ先までご連絡ください。

【問合せ先】
 日本建設業連合会 建築部 山口・正田 電話：03-3551-1118